

高知県教育委員会 会議録

平成26年度第3回教育委員協議会

場所：高知県庁 正庁ホール

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成26年5月31日(土) 13:30

閉会 平成26年5月31日(土) 15:45

(2) 出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	教育委員長	小島 一久
	委員	久松 朋水
	委員	竹島 晶代
	委員	八田 章光
	委員	中橋 紅美
	委員(教育長)	田村 壮児

(3) 高知県教育委員会会議規則第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長(総括)	勝賀瀬 淳
〃	教育次長	中山 雅需
〃	教育次長	永野 隆史
〃	参事兼教職員・福利課長	彼末 一明
〃	教育政策課長	有澤 功
〃	高等学校課課長	藤中 雄輔
〃	高等学校課企画監	坂本 寿一
〃	教育政策課課長補佐	中平 貢正
〃	高等学校課課長補佐	竹崎 実
〃	高等学校課課長補佐	高野 和幸
〃	教育政策課チーフ	溝渕 松男(会議録作成)
〃	教育政策課主任指導主事	葛原 彩子(会議録作成)

(4) 教育委員長の依頼により出席した者

高知西高等学校校関係者 保護者代表(4名)

校友会代表(5名)

国際交流推進会代表(4名)

【冒頭】

委員長 教育委員協議会を開催する。

教育長 (あいさつ)

本日は今年度、第3回目の協議会となりますが、県立高等学校再編振興計画について、ご意見を賜りますために、高知西高等学校の関係者の皆様にご出席をいただいております。皆様におかれましては、ご多用中のところ、ご出席いただき誠にありがとうございます。

さて、県立高等学校の振興に向けた、学校の再編や統合という課題への対応につきましては、平成23年9月から県立高等学校再編振興検討委員会で検討していただき、昨年2月に報告書にまとめていただきました。昨年度は、その報告書を踏まえて、事務局において教育委員のご意見もいただきながら具体的な県立高等学校の再編振興のあり方について検討を重ね、12月からは公開の教育委員協議会で協議を行い、1月末に、再編振興計画の「たたき台」をお示したところです。この再編振興計画につきましては、再編や統合の対象となっております学校関係者の皆様から、様々なご意見をいただいております。また、高知市議会からの意見書等もいただいております。

これを踏まえまして、県教育委員会としては、改めて関係する学校の関係者の皆様等からご意見をお聞きし、丁寧に議論を進めていく必要があると考えており、本日の協議会には高知西高等学校の関係者の皆様にご出席をお願いした次第であります。

本日は、改めて、「たたき台」や統合後の姿について、より詳しい説明をさせていただいたうえで、皆様からご意見をそれぞれお聞かせいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

【協議 県立高等学校再編振興計画について（高等学校課）】

○高等学校課企画監 説明

○高知西高等学校関係者 保護者代表との意見交換

委員長	30分程度の説明となった。すぐに理解できないところがあるかもしれないが、今から保護者の方から30分間意見を聞きたい。今日、話しているのは県教育委員会としてこういう形で議論を進めたいとして、たたき台を示している。関係者のいろいろな意見を聞きながら最終的な教育委員会としての案をつくっていく段取りになっている。今から、保護者の方には14時30分を目途に質問、意見を頂きたい。 グローバルということで横文字が入ってきている。高知西高校の場合はこれまでも英語教育を行ってきた。高知県内でもグローバル教育が今後非常に必要だとの説明をしたが、今、国の政策として、グローバル教育を積極的に推進していくという方針がある。高知県としてもこの全国的な動きに遅れることのないような対応をしていきたい。考え方として、生徒数が減るので、単なる数合わせで学校を縮小する形だけでなく、統合していく中で発展的な発想が必要
-----	---

保護者代表	<p>であるので、グローバル教育科の案を教育委員会としてもっているところである。小さなことでも良いので、質問等出してもらいたい。</p> <p>P T Aの副会長である。</p>
教育長	<p>今回の統合の件であるが、高知西高校にとってはグローバル教育の導入、併設中学校ができるなど前向きな話である。しかし、高知南中高校との統合ということで分かりづらい点がでてきている。高知西高校は学力の底上げになるのではないかと思う。それとは別に、自分が住んでいる町で小学校、中学校がなくなることを見てきているので、感情的な部分もわかる。そのところをしっかりと理解していただき、しっかりした方向で進めてもらいたい。</p>
保護者代表	<p>高知南中高の関係者にもきちっと配慮して欲しいとの主旨か。</p> <p>そうである。</p>
教育長	<p>そのことについては、我々も胆に銘じている。先日、高知南中高校関係者から意見を頂いたところである。その時、その場で 100 を超える沢山の意見を頂いたので、それについては6月17日に回答し、また話をしていく場を設けている。今後、丁寧に協議をしていきたいと思っている。</p>
保護者代表	<p>P T Aである。</p> <p>確かに、子どもたちが減っているのは事実である。高知市内、その近隣も減っており、中山間部になると更に生徒数が減っているのも事実である。高知西高校としては非常にありがたい話を頂いていると感じている。それによって周りの子どもたちへ与える影響、仮に高知西中学校ができるとした場合、近隣には西部中学校があるがそこへの影響をどう考えているのか。高知市内から高知西中学校へ目指す生徒と近隣校市町村から高知西中学校を目指す生徒のバランスを取っていこうとすることは理解できる。しかし、高知市内の学校を目指す生徒が更に増えるのではないかと思うが、そのあたりのシミュレーションはあるのか。データがあるなら示して欲しい。高知西高校の敷地で中学校ができるとすると、空き地になっているところだと思うが、グラウンドや体育館はどうするのか。中学校と高校が共有で使用することになると部活動等についても支障がでてくるのではないか。その辺の考えがあれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>グラウンドについては、近くの共用グラウンドを合わせて使用することを考えている。体育館については中学校と高校が共用することになるだろう。そのあたりは一定理解していただきたい。</p>
事務局	<p>周辺学校への影響についてである。高校入試の変遷をみるとかつては通学区域があった。高知学区外から高知市の高校への入学希望者が多かったことから、平成18年からは通学区域外からの入学者の割合を10%に変更し、平成22年度からは段階的に通学区域を撤廃していき、平成24年度からは完全に通学区域を撤廃した。高知西高校に関しては通学区域外からの入学者を15%、20%と増やした関係で、全体での通学区域外からの入学者が15%から20%に増えたのは事実である。高知学区全体をみた時には、大幅な影響はない。今年度の入試においては、学区外の生徒の入学者数が減少している状況である。今後、</p>

<p>委員長</p>	<p>統合が進んでいくことで、より高知市への集中との心配だと思うが、今の入試の状況をみる限り、過度の集中はないのではないかと推測している。これまでも高知市内校を希望する生徒は私立学校を含めて入ってきている。しかし、周辺部の生徒数も減っているのも、更に高知市内校に集中してくることは今の傾向であれば心配ないのではないかと考えている。</p> <p>併設中学校であるが、現在の高知南中学校の入学定員は120名で、新たな併設中学校は80名と生徒数の減少も考えて定員を少なくしている。高知西高校は、土佐市やいの町からの入学生が多いので、それらの地域からも広く入学を希望してくることが考えられ、近隣の西部中学校、朝倉中学校から集中して80名が入学してくることは想定しづらい。現在の高知南中学校よりは、色々な地域から入学してくることが考えられるので、周辺の高知市立中学校への影響は現状よりも少なくなると推測しているところである。</p> <p>今後の受検者に対する悪影響については極力調整をしながら対応していきたい。</p>
<p>保護者代表</p>	<p>P T A会長である。この話が現実化して高知西中学校をつくるのであれば、近隣の小学校から生徒を集めるのではなく、全県下から高知西中学校に入学したいと思ってもらえるような良い学校をつくらなければならない。高知南中学校の場合は、高知市南部の小学生が一大勢力であると聞いているが、そのような中学校ではなく、全県下から高知西中学校に行きたい、そこでグローバル教育を受けたいというような、良い中学校をつくってもらいたい。</p> <p>話が元に戻るが、今回の統合案については、一保護者として大変驚いた。なぜ、高知西中学校なのか、なぜ、高知南中高校なのかが一番に頭をよぎった。高知西高校の振興策の話と高知南中高校と高知西高校の統合の話はまったく別問題である。高知南中高校の生徒、保護者、卒業生の皆さんが納得していただけるような話を県教委と高知南中高校関係者でもらいたい。高知西高校問題はそれからの話である。高知西高校が中高一貫になって素晴らしい高知県の教育の一端を担える素晴らしい話であるので、まず、高知南関係者が納得できる案を出してもらいたいと思う。</p>
<p>教育長</p>	<p>新しい中学校のことで、近隣の小学校だけでなく全県下から集まるような学校を望むとの意見であった。先程説明した内容からも基本的には、広く県内から集まっていたくような中学校になるべきであろう。ただ、具体的に、全県フリーにするのか、一定中央部を確保したうえで全県下とするのかなどであろうかと思う。基本的な考え方としては、全県下から広く集まるような中学校にしたい。</p> <p>高知南中高校の関係者の納得については、先ほど回答させていただいたように精一杯努力していきたいと考えている。</p>
<p>保護者代表</p>	<p>保護者である。</p> <p>高知南中高校の関係者を納得させるのは大変かなと思う。個人的には無理かなと思う。</p>

	<p>最近、西部中学校区の生徒が高校入試の無い高知南中学校に進学する生徒が多くなっている。西部中学校の生徒数がどんどん減ってくると困るのであまり賛成できない。</p>
教育長	<p>今の話は、西部中学校区の生徒が行くことのできる高知南中学校がなくなることが困るということか。</p>
保護者代表	<p>高知南中学校は受検の時に人気がある。高知南中学校から高校入学時には地元の高校に進学するケースがある。高知南中学校が逃げ場になっている。西部中学校に行きたくないから高知南中学校に行くという選択肢としてあった方が良くと思う。</p>
教育長	<p>そのような話があるのは事実だと思うが、中高一貫校としての中学校の位置づけなので、中高一貫で目指すべき教育がある。本来、一般的な公立中学校としての教育とはそれぞれの公立中学校できちんと担ってもらうのが基本である。今回、新しく高知西高校に併設する中学校は、今説明したように、グローバル化に対応した教育を集中的に行っていく中学校としてつくらせてもらいたいので、そこは、切り離して考えていただけたらと思う。</p>
保護者代表	<p>今回の統合の話であるが、一番驚いたのは新聞報道で知ったことである。それまでには、いろいろな話をしていたと思うが、新聞を見て、今日の資料の様なことがいろいろと載っていたが、非常に不信感をもった。津波対策や色々なことが出ていたが、高知南中高校関係者にとっては非常に感情的になってしまったのではないかと。最初のボタンの掛け違いがあったので、そこが今日に至っているのではないかと。もっと最初から保護者や地元の方々と、しっかりと協議をしていただいて、そして報道していただくように段階を踏んで話をしてもらいたかった。何か出来上がった既成事実ができてから、こちらに投げかけているように感じられ、そのあたりが今回、不信感を持ったところである。そして、今日、やっとこのような話の場を持っていただき、なんとか理解ができているというところである。もう少し、県教委の方々も我々にしっかりとした情報を出して、一緒に前を向いて進んでいくのがこれからではないかと思う。今はマイナスからのスタートと考えている。ここからがスタートなので両方の信頼関係を築きより良い教育環境を作ってもらいたい。最終的には子どもたちの教育であるので、その環境を整えて行う最良のところを見出していきたいと思う。</p>
教育長	<p>最初のスタートのところは、私自身も唐突感があったのではないかと話をしたことがある。確かに新聞で知ったということで唐突感を感じた方々がいるのではないかと思っているので、今回は丁寧な説明をということでやってきている。言い訳になるが、1月の発表はあくまでもたたき台ということで出している。これが結論ではないということで出している。行政の進め方として、結論を先に発表するやり方も他の部門ではあるが、教育委員会として、学校再編については決めきっていない「たたき台」の段階で示して議論をしていただこうとの趣旨であったが、そのところが十分伝わっていないこともあったし、そ</p>

保護者代表	<p>もそも、それまでの情報が少なかったということもある。その点については、我々も反省して対応していきたい。</p> <p>PTAとしては保護者の方々に説明する義務があるので、情報は入れてもらいたい。それと企画監にお尋ねする。グローバルコースが60名で国際バカロレア教育が20名であるが、具体的なカリキュラムの内容はどうなっているのか。それともこれからなのか。</p>
事務局	<p>具体的なカリキュラムはこれから検討させていただきながら進めていくことになっている。先行して行っている他県の学校の情報を集めながら、情報提供できるところはさせていきたい。</p>
保護者代表	<p>現場の先生の意見を聞いてもらいたい。</p>
事務局	<p>もちろんやらせていただく。</p>
委員長	<p>貴重な意見をありがとうございました。今後の検討に向けて参考にしていく。</p>

○高知西高等学校関係者 校友会との意見交換

校友会代表	<p>校友会の三代目の会長である。高知西高校の7期生である。7期生でやっと西高らしくなった時期である。1期生から3期生はくじ引きで高知西高校に決まったときに全員泣いたということを知ったことがある。我々は7期生で、グンゼの工場がある教室であった。その時の先生の姿勢にすごいものがあり、今でも感謝している。13クラス700名を超す我々7期生に対して、お前たちが高知追手前高校に追い付け、追い越せを掛け声に、高知小津高校、高知丸の内高校の高知市内校に追いついていけという掛け声で、7期生ぐらいの時からやっと学校らしくなってきたなあという状況である。それから学校が一丸となって今の高知西高校がある。</p> <p>我々が入学した昭和38年問題、昭和22年生まれが高校生になった時が、現在の教育問題の原点になっている。そのころが大量の高校入学生がいた時期である。この年にできたのは、県立の伊野商業高校、高知東工業高校、私立の高知中央高校ができた。生徒数が膨れに膨れた時期であった。</p> <p>この高知南中高の問題はどこから出てきたのか。中高一貫校は中村、安芸、高知南にある。国の方針でできた中高一貫教育校であり、高知南高校は理想に燃えていた学校ではないかと思う。高知市内校で高知南高校が廃校になり、次に廃校になるのは高知西高校ではないかと危機感をもっている。歴史も伝統も高知市内の中央部の高校と比べ劣っていることを考えると、歴史や伝統のない学校は潰しやすいという気がする。</p> <p>生徒数が少なくなることにより、私立学校と県立学校の問題が出てくる。中高一貫教育校は高知市内に私立学校がある。生徒数が少なくなるなかで、高知西高校に中学校をもってくることは良いのか。私の最終学歴は高知西高校で大事であり、廃校になるとなれば大反対の立場である。私も大学校は出た。しかし、大学校となると大学卒にならない。高知西高校が大卒ばかりになり、私立学校に対抗するのはどうかと思う。今日の資料の文章は100点満点であるが、高知西高校がここまでいけるのかと思う。</p>
-------	--

	<p>もう一点、中澤前教育長が、任期を残して、このたたき台を発表して退職した。3月の高知西高校での説明会では、企画監が来たが、説明した後、明日から異動で転勤しますということだったのでびっくりした。教育長が変わり、企画監が変わって本当に高知西高校、高知南中高校の事を考えてくれているのか。誰が責任をもって進めて行くのか。統合には10年かかるということであるが、地に足を付けた教育を目指して欲しい。</p> <p>私の家は代々百姓をしていた。私が高知西高校から高知市内で仕事に就き、田舎の父母が年を取り、私が百姓をできないことで土地を売った。教育をしたばかりに都会に出た。田舎に若者がいなくなっている。そのようなことで仁淀川流域には空屋がたくさんある。教育だけでなく、県の産業、災害の時の作業員がいない状況になっている。大学卒ばかりを目指した、国際化を目指していくのが本当の高知西高校の姿かなと思う。地域にある高知西高校、四番目の学校としていくのが良い。高知追手前高校に追い付いていない。もう少し地道な高校のあり方を望む。高知市内は高校生がいっぱいであるが、郡部は特例として残す学校ばかりである。特例として残しておいて、高知西高校を国際化にしてどうなのかと思う。</p>
<p>校友会代表</p>	<p>副会長である。今回、教育長と担当の室長が大事な話の前に退職、異動したことは残念である。一つの学校が廃校になる大事な時には、責任者としてしかるべき人が責任をもって説明するべきであり、それくらいの情熱が必要である。内容の方で、現状について話をしたい。高知西高校については中高一貫教育で継続するとの話であった。あえてこの生徒数が減っている時期に私立学校については定数がそのままのなかで、なぜ中高一貫併設校が必要なのかの説明が不足しているように思う。先程、保護者の話の中で西部中学校の例が出たが、実態として保護者、中学生が高校を選ぶ時について、選び方が生徒により差があるという話があった。その点を含めた中高一貫校の在り方、中学入試の在り方についてどう考えているのか伺いたい。</p>
<p>教育長</p>	<p>中学校入試の在り方というのは、中高一貫の中学校がなぜ必要かという意味合いか。</p>
<p>校友会代表</p>	<p>それも含め、公立中、私立中、県立中という選択肢が、目的にあった選ばれ方を一部されていない現実がある中での、今後、県立中学校の入試の在り方について教えてもらいたい。</p>
<p>教育長</p>	<p>先ほどの回答と繰り返しになるかもしれないが、私立中学校は、それぞれの学校の設立目的とか、学校方針で運営され、生徒を集めている。学校方針について我々がどうこういうものではない。一般の公立中学校は、それぞれの中学校の通学区域の生徒の教育レベルをしっかりと確保していくことが本来の姿である。県立中高一貫校は、先程申したように、県立中学校としての目的の中で、中高一貫校としての学校の目的の中で生徒を集めて、どういった教育をやっていくかを考えている。地元の中学校に行きたくない生徒が高知南中学校にいつている現実の問題としてもあると思うが、もともと逃げ道として設置している</p>

	<p>訳ではない。今回の中学校についてもそのような考え方でやっていく。 教育長が変わり、担当の企画監も代わっているが、それ以外のメンバーは変わっていない。教育長が変わったこととこの問題は全く関係ない。前教育長の個人的な事情で、前々から考えていたのが、結果としてあのタイミングとなったということだ。教育長が変わったこと、責任者が変わったことについて不信感があるかもしれないが、組織として仕事をしているので、私としては、しっかりと引き継いでいきたいと考えているので理解をお願いしたい。</p>
<p>校友会代表</p>	<p>先ほどの説明の中で、高知南高校は30年で募集停止であり、最後の入学生が卒業すると廃校となるのではないかと。資料では、統合の進め方として表現している。また、統合という言葉が頻りに使っているが、統合の意味が分からない。県教委として「統合」という言葉をどのような意味で使っているのか説明して欲しい。</p>
<p>事務局</p>	<p>今までも統合をしてきている。高知南高校を引き継ぐ形である。高知南中高の国際教育、中高一貫を引き継ぐ形で統合させてもらいたいという意味である。</p>
<p>委員長</p>	<p>統合の場合は、いろいろな統合がある。2つの学校がフィフティ・フィフティで統合する場合もあり、内容を引き継ぎ1つの学校にまとまる場合もある。学校がなくなるという事実があるが、内容的なものを引き継ぐ形で統合していくことにしている。</p>
<p>校友会代表</p>	<p>副会長である。 統合が必要とのことであるが、結局は、公立中学校に行きたくなければ私立学校へ行きなさいとしているように感じる。公立中学校の生徒数が減っていかなくで、頭の良い生徒は私立学校へ行きなさい、それ以外の子は公立中学校のどこへでも行きなさいよと言っているのではないかと。ますます、子どもたちを切り捨てている。結局、公立中学校が良くないから、私立学校に行かせ、落ちこぼればかりが公立中学校にいつているのではないかと。統合と格好良いことを言わないで、廃校と言えよ。高知西高校と高知南中高は別に考え、新たに高知西高校に中学校をつくれれば良い。高知西高校に何年度に中学校をつくりますとすれば保護者も驚かないが、高知南中高と統合しようとするので分かりづらい。なぜ、高知西高校だけが中高一貫校になるのか。高知市の生徒が減っているから全ての県立高校に県立中学校をつくったらどうか。なぜ、高知西高校だけですか。高知西高校だけ考えてくれて、他の学校は考えていないのか。全ての県立高校に中学校をつくれればよい。なぜ、高知西高校だけ統合なのか。グローバル化など格好のよいことと言ってごまかしているだけではないかと。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほどの説明の繰り返しとなるが、なぜ高知南中高と高知西高校を統合するかについては、教育環境の充実という点から、高知南高校の国際科と高知西高校の英語科を活かすことができるということである。なぜ、高知南中高かということは、震災のリスクを避けたいことが大きな理由である。高知南高校とどこを統合するかについては、先ほどの教育環境の充実という点で、高知西高校であれば中高一貫の6年間をつかって、グローバル教育も進めやすいという</p>

<p>校友会代表</p>	<p>ことである。 結婚する時にも相手の家の様子を伺う。高知西高校が良いと県教委が考えていても、高知西高校にもってくることがおかしいと思う。なぜ高知西高校なのか。高知小津高校では駄目なのか。南の端と西の端の統合はおかしいと思う。伊野商業と高知商業はどうなる。あんな近くに市立と県立の商業高校が2校ある。そこの当たりにも疑問を感じる。</p>
<p>教育長</p>	<p>中高一貫校は県内で東部、中部、西部に各1校設置している。これからもこの配置を維持したい。中部をどこにするかで高知西高校と高知南高校を統合するのであればそこに併設中高一貫校を設置することが良いのではないかと考えたことである。もともと中部に1校どこかに置くことにしている考え方である。</p>
<p>校友会代表</p>	<p>10年後の生徒数の減少に対してこれだけの統合で間に合うのか。何年後にはこの高校が統合しますよと言っておかないと、今の小学生が困る。高知西高校だけモデルケースで統合するのか。統合するなら、2年後、3年後どうなっていくかのイメージをもっていれば納得ができる。</p>
<p>教育長</p>	<p>今のシミュレーションでは、たたき台案での統合を行えば今の6学級の学校規模は10年後も維持できると考えている。要は、中央地域では一定規模を維持していく必要があるという考え方の中で今回の案を示したところである。</p>
<p>校友会代表</p>	<p>生徒数の減少、グローバル人材の育成を非常に強調されている。人口の減少は日本全体で起こっており、20年前から予想されていた。現に昨年度は高知県では1万人人口が減少している。近い将来、生徒数がどんどん減るのが目に見える。今、高知南高校の国際科と高知西高校の英語科がなぜ統合となっているのか、「統合」の言葉の意味を先ほど尋ねたが、回答は引き継ぐであった。全然意味が分からない。どのようにして引き継ぐのか。 グローバル化は、高知南高校、高知西高校だけの問題ではなく、県下の全ての小学校、中学校、高等学校で目指している。現在、高知県を含め地方は完全にグローバル化を目指している。高校を卒業すると県外にすべて取られている。高知県で働きたくても将来希望のもてる職場が少ない。県外の大学や専門学校へ行ったら高知県に帰ってこない。このような高知県の環境において、教育による人材育成を考えると学校を残すべきではないか。4学級とか1学級30名とか生徒数が少なくなる方が、手厚い指導ができる。統合の説明は全く理解できない。今回やろうとしていることの口実が、生徒の減少、グローバル人材の育成である。</p>
<p>校友会代表</p>	<p>副会長である。 中学校、高校でPTA活動をしてきて、いろいろな話を聞いてきたので確認したい。県立の併設型中高一貫校は、安芸高校、高知南高校、中村高校で始まったが、開設当初は、あまり良い話を聞いたことがなかった。子どもを中高一貫校へ行かすべきではなかったとの話を随分聞いた。私学の中高一貫を参考に導入したと思うが、いろいろな問題があった時、公立中学校の先生の立場は保護</p>

	<p>者の方から難題をもち掛けられたとき弱い立場であり、全てを受けとめなければならぬ状況が続いていた。学校教育というより、子育てのことに力を注がなければならぬ状況がずっと続いた。そのような中で、県内3カ所で行った中高一貫校の成果、どのような良い結果が出たかを知りたい。</p> <p>もう一つ、グローバル化で国際的な人材育成は素晴らしいことだと思う。グローバル教育科ができるのは良い。その際、普通科は、中高一貫になった場合どのように変わるのか。普通科への対応はどうするのか、今までの併設型の中高一貫教育校と何が変わるのか。</p> <p>私立学校の教員から聞いた話であるが、私立学校は退学処分ができるが、公立中学校は無理である。新しい高知西中学校では、いろいろな生徒が入学してきたときに、どのようなシステムでやるのか保護者の立場から聞きたい。私立学校のように「転校しなさい」は無理だと思うが、そこの当たりについてどのように考えているのか。</p> <p>高知西高校は、生徒と先生と保護者が一体となって作り上げてきた。余談になるが、塾の先生が「なぜ、保護者は高知西高校に行かせたがるのか」と言っていたが、それだけ高知西高校は本当に素晴らしい学校になってきたのである。だから、校友会、PTAの皆さんが、自信をもって自分たちの学校を守りたいという気持ちが強いと思う。このような学校にしてきたからこそ、高知西高校は統合するのに簡単だという見方があったかもしれないと考えてしまうところもある。グローバル教育を導入するとか言っているが、簡単に高知西高校で良いのではないかと決められたのではないかと思う。それについて聞きたい。</p>
事務局	<p>中高一貫校になった場合の普通科についての説明が足らなかった。資料2に示しているように、中央に柱があり、本県の高等学校をリードするグローバル教育ということで併設の高知西中高校で行う。柱であるので普通科とグローバル教育科、共に行う。今までの普通科と違う点はそこである。資料2の左側に書いてあるような探究型学習やコミュニケーションを重視した授業などを取り入れながらグローバル教育を基礎におきながら進めていきたい。資料2の右側のグローバル教育科は更に発達させた形である。ベースで両科とも同じであり、グローバル教育を進めていく高知西高校であることには変わらない。今までの普通科と同じものが進むものではないと考えている。それが普通科である。</p>
校友会代表	<p>高校に進学するときにグローバル教育科に移ることはできるのか。中高全てをグローバル教育科とすることも可能なのか。なぜ、普通科とグローバル教育科と分けるのか。</p>
事務局	<p>グローバル教育科においては、グローバルコースと国際バカロレアコースに分けていく。国際バカロレアコースであれば国際バカロレア資格の取得を目指すことに特化した授業も行う。グローバルコースとなると、例えばTOEFL80点以上を目指すなど具体的な目標を掲げ、より英語教育を行い、いろいろな面で課題研究などにより発展したコースを設置している。普通科では同じ様にグ</p>

	<p>ローバル教育を行うが、特化してまでは行わないがグローバル教育は行う。全部をグローバル教育科にするということは、全員が国際バカロレア資格取得を目指すことになるので、これは考えていない。普通科は普通科として今までの進学拠点として、今までの高知西高校を活かしながら、より課題研究などを行いながら、コミュニケーション能力を高めた授業を行っていきたい。</p> <p>高知西高校を選択した理由であるが、高知市内校のどこを統合するのかという話である。このことについては、今の協議の場を設けるぐらい重要な問題であるので単純に考えた訳ではない。いろいろな選択肢を考えながら案を示したところである。今の説明で抜けていたかもしれないが、高知西高校が選ばれたのは、まずはグローバル化の点である。もう一つは、震災を考えた時に高知西高校は浸水0mであり、より震災に強い場所である点、敷地に関して、他の市内校は敷地が狭隘であるが、高知西高校は併設中学校を設置できる敷地があることも選択肢の理由の一つである。</p>
<p>校友会代表 事務局</p>	<p>県内で3校つくった併設型中高一貫校の成果について聞きたい。</p> <p>平成14年度から併設型の中高一貫学校を東部、中部、西部に各1校設置した。これに至るまでは、検討会を開き、高知県ならではのの中高一貫教育校はどうあるべきかの議論を有識者の方々を交えて行った結果、それまで私立学校では中学校、高校と一貫で行っていたので、公立学校としても一つの選択肢を設けるべきではないかとの意見を頂いた。また、それまでは中学校3年間の教育後に入試があり、高校の3年間で完結するような形であったが、6年間のスパンのなかで、じっくりと中1から高3までを育てていこうと考え、そういった教育活動をつくっていききたいということだった。また、その際に全国的にも議論されたことでもあるが、受験エリート校ではなく、あくまで子どもたちの進路保障はしっかりとやっていくが、受験エリートのための6年間の教育ではなく、6年間という子どもの成長過程を考え、その中で色々な体験活動を行いながら、しっかりと子どもの成長を受けとめ、中1の子どもが高1の子どもにも刺激を与えてお互いが頑張っていくなどということも考えて、3校をつくらせてもらっている。</p>
<p>教育長</p>	<p>県立高に初めて併設の中学校をつくるということで設立当初はいろいろな課題があったが、年数を重ねることにより中高の6年間をどうしていくかをそれぞれの学校が議論する中で、地域の方々の協力を得ながら現状として一定の成果を出している。大学進学率についても併設中学校をつくる前と比べると大学進学率はそれぞれの学校で上がっている。県教委としては、この3校の10年間の成果は十分あったと言える状況になっていると考えている。</p> <p>少人数学級の話があった。40人学級から30人学級にしても良いのではないかと意見があった。同じ意見を高知南中高校の関係者からも頂いている。小学校、中学校と違い社会人一步手前の時期である高校生にとっては一定の学校規模というのが切磋琢磨する環境づくりとして必要である。具体的には部活動でいろいろな活動に参加でき、活動が活性化できるという意味合いからも学校規</p>

	<p>模が必要であると考えている。郡部の学校をやむを得ず別の扱いとしているが、望ましいのは6学級以上で、維持できるところは維持していきたいということで、高知市内校については提案している。しかし、郡部については周辺部に高校がないので、1学級が維持できるなら学校は残していきましょうということである。学級規模が維持できるところでは、30 人学級については考えていない。</p> <p>もう一つ30人学級で30人学級のような手厚い指導すると40人学級と同じ教員配置が必要となるので、そうすると費用面で県として大変大きな負担がでてくるという問題もある。</p>
<p>校友会代表</p>	<p>統合について、校友会がどのような形で進んでいくのか。高知西高校には校友会があり、高知南高校にも校友会がある。高知南高校がなくなった場合は、伝統のある高知南高校の校友会を高知西高校が引き受けるのか。</p> <p>津波は来る、地震がくるということで、全て高知南中高校が危ないというような感じであるが、安芸高校も危ない、高知南中高だけが危ない訳ではない。統合校となっている高知南中高校の生徒の気持ちはどうか、なくなる学校に、入学生がくるのか心配するがどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>仮に高知南高校を統合する場合、校友会は高知西高校で引き継いでもらうことになろうと思う。</p> <p>高知南高校だけでなく地震で危ない学校がまだ他にあるとの話であったが、今回は、高知市内を統合するならどこをするかであった。県内全域をみた場合、安芸高校、須崎高校、清水高校の震災対策を進めている。</p>
<p>教育長</p>	<p>校友会については、教育委員会がどうこう言う事ではないので、訂正させてもらう。</p>
<p>委員長</p>	<p>校友会は、校友会同士で話し合っ決めてもらいたい。今までにも、高知県の高等学校でも統合した学校がたくさんある。現実には残っている学校のものに、名簿などを統合しているというのが実態であると思う。</p> <p>ありがとうございました。</p>

○高知西高等学校関係者 国際交流推進会との意見交換

<p>国際交流 推進会代 表</p>	<p>前PTA会長である。</p> <p>国際交流推進会は高知西高校PTAのOBや卒業生、高知西高校大好きな方の組織であり、高知西高校を支えている。留学生の受け入れ時のホストファミリーやいろいろなお世話をしている会である。</p> <p>今回の資料の中で資料2については、初めて具体的な姿を描いた資料であり、すごく良いものである。このすばらしいことを最初に前面に出してもらった。このグローバル化の中で国際バカロレアの認定校をつくることを目指していることは、皆さんに知られていないことである。良いことをもっと早く前面に出して示していたら、もっと早く計画が進んでいたのではないかと。ある意味これは、絶対に進めていただきたいし、そのメリットをどんどん出してほしい。実際、教育現場の人でなければ分かりにくい大学入試の制度改革のこ</p>
----------------------------	--

	<p>とや、国際バカロレアの認定校のことについても発信してもらいたい。国際バカロレアの認定校は、全国でも例えば帰国子女のインターナショナルスクールとか私立学校にしかない。このようなことを高知県が取り上げて、公立で認定校をつくることはすごいことであると思う。高知県の経済状況を見ると私立学校に行かせたくても行かすことができない状況を踏まえると、県民にとってすごく素晴らしいことだと思うのでそれを前面に打ち出してもらって素晴らしい学校をつくる、それを公立校で考えているのでということをもっと早く最初に打ち出してもらいたかった。これからも十分間に合うのでどんどんだして進めていってもらいたい。国際バカロレア認定校ができるのは高知西高校の伝統であったり、校風であったり、子どもたちの状況であったりを考えると、高知県では高知西高校でしかできないのではないかな。それと、国際バカロレアコースを設けることは、中高一貫校でなければできないことである。単に公立の中高一貫校ということではなく、このような高度なものは中学校から教育していかなければならないものであり、中高でやっていかなければ可能にならないものである。これは通常の中学校ではできないものであるので、公平に公立学校でやるということはすごいことである。それを前面に打ち出していただきたい。</p> <p>一つ要望としては、高知南中学校がなくなるので高知西高校につくるということでは進めてもらいたくない。進めていくにあたっては、中学生の募集の段階で、昔の高校受検にあった学区制を導入すると公平でなくなる。公立校でも学区制があると県下一律の公平性がなくなる。それを県下全域に公平に受検資格を与えることを要望したい。中学生というのは家から通えることを考えると遠方からの生徒は入学が無理である。県として取り上げてつくっていくなら、それなりの予算を教育費に使い、一定の生活保障のために寮の完備を考えてもらいたい。この教育システムは高知県にとって素晴らしいことである。今の問題と一緒にするのではなく、しっかり今進めないで2番手、3番手になると難しくなると思う。ただ、進学校をつくるのではなく世界に通じるものを高知県でそのような学校をつくっていけることは素晴らしいことである。是非、これからの進め方をよろしくお願ひしたい。</p> <p>こちらの説明不足な点も言ってもらった。中高一貫で中学校から英語についてきちっと勉強することで、高校に入って国際バカロレアコースにも対応できるよう中高一貫でそのような生徒を育てていきたいとの考え方である。中学校の生徒募集は県下一律に公平に募集するのかが先ほどもあったが、基本的な考え方としては、県下一律の募集するべきであろうとの考え方をもっている。しかし、それをすべてフリーにするか、中央部とした上で一部フリーにするのかは今後詰めていきたい。寮については、趣旨は理解できるが、この場で即答できないので検討していきたい。</p>
教育長	
国際交流推進会代	<p>3つほどある。</p> <p>1つ目は、この会でのいろいろな意見がでたが、この問題はほぼ決定しており、</p>

表	<p>なお、聞いて細かいところに意見を入れようとしているのか。</p> <p>二点目であるが、目指す生徒像が示されているが、目指す教師像はあるのか。今までに無いものをやっというとするなかで、先生方に対しての教育や考え方はどうなっているのか。高知西高校に統合したら、教科書があるからといって高いレベルの授業ができるものではないと思う。それについてどう考えているのか。</p> <p>三つ目は、資料をみて、グローバル教育が大きくでている。グローバル教育については今始まったことではなく、既に始まっていることである。海外にもたくさん出ていっているなかで、今、グローバル教育を前面に出してやっている。高知県の学校教育が見えているものからやろうとしているのではないか。今いろいろな問題が起きているのは、20年前から見えている人には見えていたけれどもそのための手を打っていないために今の問題が起きている。教育が一番大切である。その教育現場で完全に見えているものに対して問題解決ではなく、対処しているような状況に見える。これが目的であったとしたら疑問に思う。この3つについてどうか。</p>
教育長	<p>最初の質問である。全体的なことを決めておき細かな点を議論するののかとの疑問であったが、そのような前提ではない。そもそものことも含めて意見を聞いている。我々として考えている案はこのように統合していくことがベストな案ではないかと説明した。ただ、これについて意見を聞いてベストであるかどうかを改めて検討していく。</p> <p>次に、グローバル教育を行っていくためには、教員の育成はやっていく必要があると考える。研修も含めて新しい形の教育に沿った教員を養成していくことは、新しい統合校に向けて当然やっていくことである。</p> <p>それから、なぜ、今こういうことをやるのかとの質問であろうと思うが、グローバル教育は高知南中高校で行っており、高知西高校では英語教育をやっているし、他の学校でも行っている。今回は国際バカロレアコースの導入が新しいことである。世の中の動きとしては、知識偏重型では今の国際的な流れの中で対応できなくなっている大きな流れがある。国の動きとしても国際的バカロレア認定校を目指していこうとしている中で、我々もその流れに乗っていきたいとの意味合いがある。なぜ今かと言えばこのような考えになる。</p>
国際交流推進會代表	<p>この会に出席して、具体的な資料を目にしたことがなかったので、どのような話があるのかなという気持ちで参加した。今日の資料を見て、考えがあつたことだなと感じている。県が構想を考えて、これは走り出した汽車かなと感じた。ただ、高知南中高校のことであるが、津波のこと、生徒数の減少のことで統合とあるが、その統合という言葉にひっかかる。色々な意味合いでの統合であるとの説明であったが、聞き慣れない者にとっては分かりづらいことであり、かえって生徒数が少なくなる、津波もくるので仕方なく廃校にする方が一般的には分かりやすい。高知南中高校のPTAの方々にとっては申し訳ない言い方であるが、子どもたちの命、津波がいつくるか分からないなかで、3年前</p>

	<p>から一気に震災対策で高知県でも高台に移転したりして進んでいるなかで、子どもたちの命が守ることが優先であり、少子化のなかで仕方ないことであるかなと思った。内容については、どうなるか分かっていない状況の中で、細かいプランは統合が決定してからの話であろうと思う。ある程度のことは分かっても細かいことを詰めて行くのはこれからであろう。大まかにこの様な話をしてくれたと思っている。学校としての教育の質の向上、中学校から高校に上がる時に勉強ができなく脱落する生徒が出るかもしれないが、小学校から高知西中学校に入る子は様々なレベルの子が来ると思う。県立では入試を行わないと思うのでどのようにして高知西中学校に入学させるのかと素人感覚で感じた。そのあたりはこれから県の方で考えると思う。今回のことは、少子化で仕方ないことである。しかし、新聞等で知らせるのではなく、学校でこの様な話をし、PTAや保護者の会合等を先にもって持っていった方が良かったと思う。良い方向に向いて行ければよいと思う。</p>
<p>国際交流 推進会代 表</p>	<p>子どもが3年生にいる保護者である。</p> <p>このたたき台に対しては、賛成でも、反対でもない。高知西高校に子どもを入学させて良かったと思っている。校長先生をはじめ、先生方にも勉強し易い良い学習環境である。英語教育に関しても先生方が目に見えるように伝わってくる授業をしてくれており、サポート体制ができていておりそのような中で保護者としても協力しやすいような体制の学校である。このような思いは高知南高校も同じかなと思うなかで、このような新しいものができるのであれば、目に見える形で成功させてもらいたい。できれば子どもがこんなカリキュラム中で学んでいける学力があればと思った。先ほども話の中にあっただが、中学校受検の件で、受検エリート校をつくらないとの話であったが、目指す目標をみると、ある程度の学力レベルが入学の時点で選抜されないといけないと思う。そうでなければ非常に厳しい状態になるのではないかと思う。選抜方法については、これまで高知南中学校がいろいろ模索しながら苦労した話がある。受験エリート校をつくらないという言葉に縛られずに、もう考えているかもしれないが、進めてほしい。選考に関してはこれからの事であるので、答えは必要ではないが、思いを述べさせてもらった。</p>
<p>委員長</p>	<p>高知南中高校でも本当にいろいろな取り組みをして学校の発展のために協力しながら努力してきている。高知西高校の教職員も本当に頑張って生徒たちの進路保障に取り組んでいる。そういう中で、生徒の減少を止められない状況であるために、高等学校の再編を検討しており、非常に厳しい計画もたてなければならない。このような様々な状況を踏まえながら、立派な教育ができる前提で再編計画を策定していきたいと思う。今日は、高知西高校の保護者、校友会、国際交流推進会の皆さん大変貴重な意見ありがとうございました。</p>